

令和 6 年 8 月 14 日

東員町議会 議長

伊藤 治雄 様

東員町議会

片 松 雅 弘

研 修 報 告 書

研修期間	令和 6 年 8 月 7 日（水） ～ 8 月 8 日（木）【 2 日間】
研修（視察）先	兵庫県三木市・兵庫県洲本市
目的（テーマ等）	・まちづくり（団地再生プロジェクト）について ・決算（議会）事務事業評価について
参加議員 （複数の場合）	東員町議会議員 14 人全員
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

全員協議会で「まちづくり団地再生プロジェクトについて」のテーマで、兵庫県三木市と「決算議会事務事業評価について」のテーマで、兵庫県洲本市に視察研修に行きました。

1 日目の三木市は兵庫県神戸市の北側に隣接し、大阪・神戸のベッドタウンとして発展してきました。地域資源として 400 年の歴史を持つ大工道具を中心とした「金物の町」・日本酒を支える「酒米の王者山田錦」生産量日本一、また市内に 25 のゴルフ場があり「ゴルフの町」としても有名です。

しかし、人口減少・少子高齢化に伴う産業等、町の活力の低下が課題となっています。当町の西桑名ネオポリス（5000 区画）と同じように、1970 年代から大和団地の開発による緑ヶ丘ネオポリス（5450 区画）があり、核家族化の進行とともに、戸建て住宅団地にほぼ同時期に移り住んだ世代が、年を重ね、子ども世代が就学や進学を機に転出した結果、高齢化が進み、この状況は全国の戸建て住宅団地が抱える問題としています。

「郊外型戸建住宅団地再生事業～青山 7 丁目団地再耕プロジェクト～」として公民連携により全国的な課題解決をめざす三木市のチャレンジです。

産では、大和ハウス工業（株）、凸版印刷（株）、（株）クラウドワークスを中心に

管では、三木市、三木市社会福祉協議会、国土交通政策研究所

学では、関西学院大学、関西国際大学、創志学園

民では、緑ヶ丘まちづくり協議会（自治会）、商店街振興組合と構成されています。

これまでのように戸建て住宅団地開発を行い、同世代がまちに流入する人口増加時代の従来型の開発を行うのではなく、ライフステージに応じて住み替える先を民間事業者が整備し、空いた住宅をリノベーションし、新たな世帯が移り住む、地区全体の中でこのような循環が生まれ、このまちに住み続けられる仕組みを官民それぞれが役割を担い、全国的な課題解決でもある「人口減少」「高齢化」「空き家」等の課題を、産官学民協働により解決につながる全国初のモデルを創出するものです。

当町の西桑名ネオポリスも同様な傾向が見られますので今後のまちづくりの参考にしていきたいと思います。

2 日目の洲本市には「事務事業評価について」視察研修させていただきました。

東員町議会では事務事業評価は令和 5 年度から始めて本年は 2 年目（2 回目）になります。まだまだ未熟といいますか、手探りの状態できっちりの方向性をまだ見いだしていけていないような状態です。

まず選定の基準、評価の方法、点数の決め方やスケジュールなど参考にさせていただき学ばせていただきました。

2 元代表制の元、議会は議会の大きな役割として行政への監視機能を行うためにも事務事業評価は大変重要です。さらに中身の濃い事務事業評価に取り組みたいと思います。今回の先進地や手本となる市町村を視察し現地視察し生の声を聞いたことは、大変参考になり、私にとって有意義な研修でした。